埼玉県北部エリア

# 渋沢栄一翁 ゆかりの地を巡る






## 1 旧渋沢邸「中の家」

栄一の生誕地です。現存する主屋は妹夫妻により明治28年に上棟されました。晩年の栄一は血洗島諏訪神社の祭礼にあわせて帰郷するなど、たびたび「中の家」に滞在しました。

〈栄一との関係〉

農業を代々営み、栄一の父親の代には染料のもととなる藍玉の製造・販売を本格的に手掛け、村で1、2を競う富農となりました。




## 8 尾高惇忠生家

栄一の従兄で学問の師でもある尾高惇忠、栄一の妻となる尾高千代の生家です。江戸時代後期に惇忠の曽祖父が建てたといわれています。

〈栄一との関係〉

幼少期の栄一は惇忠に論語をはじめ四書五経を習うためここに通いました。のちに栄一や惇忠、渋沢喜作らが高崎城乗っ取り・横浜商館焼き討ちの謀議をしたのもこの建物の2階と伝わっています。（現在2階は非公開）




## 43 岩田忠一郎像

岩田忠一郎は当時関東で初めての耕地整理事業を実施。耕地整理記念として、昭和6年9月に鋳金工芸家である森村酉三により胸像が作られ、金窪(金久保)神社境内に設置されました。

〈栄一との関係〉

胸像の台座には、栄一によって「烏南岩田忠一郎君像」と書かれています。




## 42 木村豊太郎君之碑

叔父木村九蔵と競進社を作り副社長となった豊太郎の功績をたたえ、大正7年4月に金鑽神社境内に設置されました。

〈栄一との関係〉

栄一が石碑に記されている文章並びに、書体を決めました。







## 24 妻沼聖天山

日本三大聖天の一つとして知られ、特に縁結びの霊験あらたかな寺院として親しまれています。安永8年(1779年)に再建されました。本殿「聖天堂」は、日光東照宮を彷彿とさせる本格的装飾建築で、国宝に指定されています。

〈栄一との関係〉

明治32年3月31日に熊谷に立ち寄った際、竹井澹如の別邸(現在の星渓園)を訪れた後、妻沼村聖天宮(妻沼聖天山)を参拝したとされています。




## 33 農村ミュージアム「かねもとぐら」

農村ミュージアム「かねもとぐら」は蔵を改修して作られました。養蚕に使われていた道具や農具が展示されており、かつて養蚕業で栄えた地域の歴史と文化に触れることができます。

〈栄一との関係〉

栄一の著書など関連書籍が展示してあるほか、高山社根岸分教場や、秋平製糸場に関する資料なども展示されています。




## 37 旧本庄商業銀行煉瓦倉庫

本庄町最初の銀行として明治27年に設立された本庄商業銀行が、担保用の繭や生糸を保管しておくために明治29年に建設した倉庫です。キングポストトラス構造の小屋組など多くの特徴があり、国の登録有形文化財に登録されています。

〈栄一との関係〉

栄一が設立・運営に携わった日本煉瓦製造㈱の煉瓦を使用して建築されました。




## 40 秋蚕の碑

明治時代、富岡製糸場の初代場長の尾高惇忠が、秋も養蚕をするように奨励しました。当時一般的でなかった秋蚕の飼育の普及に旧松久村(現美里町)に住む深沢豊次郎が率先して取り組み、その後全国に秋の養蚕が広まりました。石碑には、秋蚕の由来と業績が記されています。

〈栄一との関係〉

石碑の選文・選書は、尾高惇忠によるものであり、石碑建立の協力者として尾高惇忠・栄一の名が刻まれています。




## 44 今井屋

創業明治40年。「タレかつ丼」が美味しい老舗の名店です。



〈栄一との関係〉

今井屋の3代目横田富美子さんは、栄一との縁がある家系・益子家の血を受け継いだ父の子である、2代目横田育子さんの夫の甥の嫁にあたります。育子さんが作りあげた味を、今日まで受け継いでいます。




## 31 長島記念館

埼玉銀行(現在の埼玉りそな銀行)の頭取・会長を務めた長島恭助の生家であり、現在は記念館として主屋や石蔵などが保存されています。

〈栄一との関係〉

記念館には収蔵された美術品も多く、埼玉銀行の創始会社となる武州銀行を設立した栄一の書が3点保管されています。

この地図は国土地理院の「数値地図(国土基本情報)」を使用して作成しました。